

まほろん

Shirakawa since 2007

通信

2025

夏

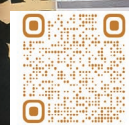
VOL.96 号

企画展紹介 U・15の考古学
「発掘調査で何がわかる？」

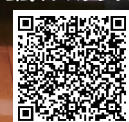
館長からのメッセージ

まほろん
学芸員のひとりごと
「遺跡との関わり合い」

収蔵資料紹介
「土瓶のような土器」



公式YouTubeチャンネル



公式 YouTube

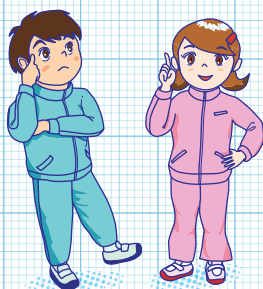
写真：まほろんゴールデンウィーク特別体験での甲冑姿の職員と小学生

企画展紹介

令和7年度まほろん企画展
U-15の考古学
発掘調査で何がわかる?
6.14(土) ▶ 9.23(火)
月曜日(7/21,8/11,9/15,9/22を除く)、祝休日の翌日
文：河西 久子(学芸員)

地面の下には、遠いむかしから現代にいたる人々の営みの痕跡が残されています。これを「遺跡」といいます。この「遺跡」を適切な方法で掘り起こして、さまざまな情報を取り出し、記録して、歴史を明らかにできるように未来に引き継ぐ行為が「発掘調査」です。この展示は、県内のさまざまな遺跡の『発掘調査の現場』にスポットを当てて、むかしむかしの福島についてどのようなことがわかってきているのか、また、発掘調査はどのようにして行っているのかを紹介する内容になっています。

この展示を通して小学生・中学生のみなさんに『歴史学習っておもしろいな』と思ってもらえるよう様々な工夫をしました。その中のひとつとして、みなさんに親しんでもらえるようなキャラクターを考案しました。小学生の男の子と女の子がまほろんに見学に来て、土器の妖精『Qくん』に出会って、展示を案内してもらうという会話形式になっています。観覧者のみなさんもQくんたちと一緒に見学しているような気持ちになってもらえたらいいなと思っています。



高木天光くん和美シ森和泉ちゃん

今回は、そんなキャラクターたちの誕生秘話を紹介します。本邦初公開です！まずは、男の子の名前は『高木天光くん』、女の子は『美シ森和泉ちゃん』といいます。ちょっと変わったなまえですよ。これは、遺跡の名前を組み合わせ

関連行事

きみも考古学者1 講座

『発掘調査って何?』

講師：当館学芸課長 福田秀生

日時：令和7年7月26日(土) 10:30～12:00

場所：福島県文化財センター白河館(まほろん)講堂

対象：小学校高学年から高校生にも理解できる内容です。

どなたでもご参加いただけます。※小学校低学年

は保護者同伴必須

申込：事前申込不要(先着40名)

たものなんです。高木遺跡(本宮市)、天光遺跡(磐梯町)は縄文時代の遺跡、美シ森遺跡(楡葉町)と和泉遺跡(会津若松市)は弥生時代の遺跡です。名付け親はキャラクターを描いてくれた職員です。土器の妖精『大木Qくん』の名前も不思議ですよ。これは、Qくんのモデルとなった土器の種類を考古学で『大木9式』とよんでいることに由来します。そして、表記は9でなく QUESTION の Q にしました。なぜ Q くんが土器の中から、によきと顔出しているのかは、Q くんが遺跡からみつかったときの状態をあらわしています。詳しくは展示をみてください。

実はQくんの他に、候補にあがったけど採用されなかつ

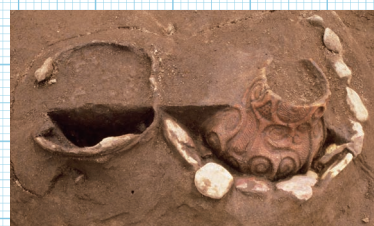


写真1 逆さまに置かれた土器

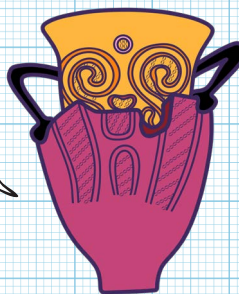
た幻のキャラクターがい
ます(図1)。どうして
逆立ちしているかとい
うと、この土器はたて穴住
居内の囲炉裏のような
施設にさかさまに置かれ

た状態でみつかったか
らです(写真1)。めず
らしい出土状況だったの
で、キャラクター化して
みましたが、展示室の
スペースの関係上、こ
のたて穴住居を取り上げなくなりましたので、このキャラ
クターも幻となりました(ココだけの話、あまりかわいくなかったから
というのも理由のひとつです)。他にもたのしく学べるように、
たくさん工夫を凝らしていますので、ぜひ見学にいらしてく
ださいね。

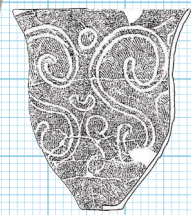
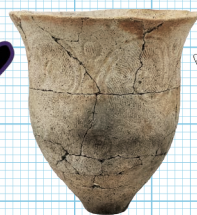


図1 幻のキャラクター

展示室でみんなに
会えるのさだめ
しみにしていますよ



土器の妖精 大木Qくん



Qくんのモデルになった縄文土器
(本宮市高木遺跡出土)

きみも考古学者2 講座

『出土品を調査してみよう』

日時：令和7年8月6日(水) 10:00～12:00

場所：白河市歴史民俗資料館及び資料整理室
(〒961-0053 福島県白河市中田7-1)

内容：白河市歴史民俗資料館の見学及び資料整理室にて、
整理作業の見学や土器片の観察、拓本体験を行う予定です。

対象：小学校高学年から高校生にも理解できる内容です。

どなたでもご参加いただけます。※小学校低学年は保護者同伴必須

申込：事前申込制(先着20名)令和7年7月9日(水)午前10時から、
電話又は館内備付けの申込用紙で受付を開始します。

館長からのメッセージ

文：館長 石川日出志
(明治大学名誉教授)

館長講演会 スケジュール 2025

- 第2回 8月23日(土)
「日本歴史の扉を開いた遺跡(2)」
第3回 9月21日(日)
「日本歴史の扉を開いた遺跡(3)」
第4回 12月7日(日)
「タイトル未定」
第5回 2026年1月25日(日)
「日本歴史の扉を開いた遺跡(4)」



こんにちは! まほろん館長の石川日出志です。

みなさん、ご自分の家の外にでて、まわりの田畑や野山を見渡してみてください。見なれた風景かもしれませんが、その視界の中に約4万年にも及ぶ長い人類史が積み重なっています。

地面の下には、縄文時代や古墳時代をはじめ各時代の人びとが住んだ家のあとや、石や鉄の道具や煮炊きに使った土器などの生活の道具が埋もれています。地上には城跡や街並みがあり、江戸時代頃以来のその地域特有の生活習慣や祭りが今に伝えられています。

福島県は東北と関東地方の中間にあり、会津の西側は新潟県を経て北陸・中部地方とも接しています。いつの時代も、これら各地の人びとと交流することを通して、人々の生活と歴史がはぐくまれてきました。様々な地方の人びととのつながりが福島の歴史の魅力を生み出したのです。

まほろんは、福島県が発掘調査した様々な時代の遺跡から出土した資料やデータを保存して、将来に伝えるとともに、<ふくしまの歴史・文化の魅力>を多くの方々に知っていただくための施設です。展示だけではわからないことも多いので、勾玉づくりや火起こししたり、弓矢を放ったりと、実際に体験していただく場や、「森の塾」という連続体験メニューなどもあります。

私は考古学者です。子どもの頃、学校の勉強はけっして得意ではなく、学校から帰ると毎日、川で魚を捕り、野山を歩きまわっていました。今、考古学者になると、そうした体験が過去の人類の生活を考える上で大きな力を発揮していることに気づきます。教室での学びはもちろん大事ですが、まほろんのような体験を重視した場での学びも、将来きっと役立つに違いありません。

まほろんにご来館いただき、私たちと一緒に歴史や文化を体感しませんか? お待ちしていますよ!

まほろん 学芸員の ひとりごと 第五回 文 吉野 滋夫 (専門学芸員)

「遺跡との関わり合い」

ここでは、遺跡との関わり合いについて、私自身の体験を思いついたまま綴ってゆきます。

まず、私が幼少期に住んでいた埼玉県上尾市尾山台団地のことです。この団地建設に伴い尾山台遺跡の発掘調査が行われたことが、団地内の公園に設置された遺跡の解説パネルにより知ることができ、これが遺跡を知った最初のきっかけだったと思います。

この遺跡は、1965年に20,000㎡の発掘調査が行われ、当時としては画期的な大規模調査であったろうと思われまふ。発掘調査では、弥生時代後期末〜古墳時代前期初頭にかけての大規模な集落跡がみつかったようです。

小学生の頃、社会科見学で吉見百穴を訪れたことは記憶に残っています。吉見百穴は古墳時代後期から終末期にかけての横穴墓群です。

高校に入った頃、NHK

教育テレビの番組で森浩一同志社大学教授(当時)が土器の実測方法を解説しているのを見て、考古学に関心を持ち、大学で考古学の勉強をしてみようかなという漠然とした思いを持ったことを覚えています。

その当時、住んでいた埼玉県越谷市の自宅周辺には遺跡がなく、遺跡を巡って遺物を採集するというようなことはしていませんでしたが、行田市の埼玉古墳群などを訪れていました。また、東京の神保町古書店街で『日本の考古学(全7巻)』河出書房を買い求め、全巻を読破しました。その後、大学で考古学の勉強をすることができました。大学では1年生から発掘調査に参加することができ、楽しく過ごすことができました。現在の職業に就いたのは、大学での経験が大きいです。が、幼少期や小学生の頃に出会った遺跡が導いてくれたようにも感じています。

まほろん 収蔵資料紹介 土瓶のような土器

三春町柴原A遺跡出土の縄文土器

文：本間 宏（学芸員）・青木愛子（学芸員）

液体を注ぐような口が付いているこのような形の土器は「注口土器」と呼ばれています。果実酒や薬などを入れて注いだ容器なのではないかという説があります。土瓶のような形ですね。

出土した場所は住居跡の囲炉裏の脇でしたが、火にかけられていたような痕跡はありません。

外側はとても丁寧に磨かれていて光沢を帯びています。口の部分には2個の把手があり、真上から見ると「S」の字を連ねたような不思議な文様が外から内側につながっています。

底の部分には、編物の圧痕があります。編物の上で回転させながら土器を成形することはよくありますが、この土器の場合は、上げ底状に成形してから編物を押し付けているようで、なんとも不思議です。

この土器が作られたのは、今からおよそ3,900年ほど前（縄文時代後期の中ごろ）なのですが、一つもヒビが入っていません。とても上品で美しく、縄文人が創り出した逸品中の逸品とすることができます。

もしかすると、祭礼で用いるとか、亡くなった人にお供えするとか、あるいは遠方のムラと関係を構築する贈答品にするためなど、特別な場面を想定して製作された土器なのかもしれません。

8月20日（水）まで、まほろんプロムナードギャラリーの「イッピン」コーナーで展示していますので、ぜひご覧になってください。



今後の行事予定

- 7/1（火）～8/31（日）夏休み特別体験
7/4（金）～8/6（水）移動展「戦後ふくしまの考古学2—高度経済成長期の発掘調査—」会場：福島県立図書館
7/19（土）～8/31（日）移動展「戦後ふくしまの考古学—にほんまつの縄文時代—」会場：にほんまつ城報館
8/2（土）・3（日）U-15 実技講座「土器をつくろう」、「土偶をつくろう」※事前申込制

編集後記

私が初めてまほろん通信の編集にかかわったのは70番台の前半でした。それから20号以上も刊行されていて、そんなに号数が進んだのかと驚いています。

この号が出た時には、夏休みも間近に迫っています。夏休み期間中にはぜひまほろん遊びに来てください。

みなさんの来館ををお待ちしております！



まほろん
通信
vol. 96

令和7年7月9日発行

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（7/21、8/11、9/15、9/22、10/13を除く）、7/22、8/12、9/16、9/24、10/14
入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）



〒961-0835
福島県白河市白坂一里段86
☎ 0248-21-0700
Fax 0248-21-1075
ホームページ [まほろん](#) 検索



HP



MAP